



# 2019年3月期 第1四半期決算説明資料

2018/08/28

エスアールジータカミヤ株式会社  
〒530-0011  
大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB27階



# 1.トピックス

## 商号とロゴマーク変更のお知らせ

当社は、「トランスフォームにより新たな価値を創造し、業界の質的发展を牽引する企業グループを目指す」というビジョンを掲げ、企業グループを名実ともに未来志向で一変していくため、2019年4月より「株式会社タカミヤ」へと商号を変更し、ロゴマークも刷新することにいたしました。



報道関係者各位

2018年6月27日  
エスアールジータカミヤ株式会社

**商号とロゴマーク変更のお知らせ**  
業態の変化や拡大成長、設立50周年を機に  
2019年4月1日から

足場をはじめとする仮設機材の販売・レンタルを行うエスアールジータカミヤ株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役会長兼社長：高宮一雅）は、2019年4月1日より「株式会社タカミヤ」に商号を変更し、それに伴いロゴマークも刷新します。




(左) 株式会社タカミヤのロゴマーク  
(右) グループ会社共通のロゴマーク

**商号とロゴマーク変更の背景**  
当社は、2019年6月21日に設立50周年の節目を迎えることを機に、同年4月1日より商号を「株式会社タカミヤ」に変更し、ロゴマークも刷新します。

変更の背景には、従来の業態から、当社が大きく変化・成長したことが挙げられます。これまで当社は、高品質の仮設機材を優れた安全性基準でレンタルを中心に提供してきたため、商号にエスアールジー（SRG = Super Rental Group）を掲げていました。

しかし、独自の次世代足場「Tqシステム（アイキューシステム）」を開発・提供する過程において、開発や製造部門を社内へ有し、2013年度には販売事業の売上高は100億円を突破し、現在では、当社の事業の4割を占めるまで拡大しました。また、海外事業が黒字転化したほか、仮設機材のノウハウを活かして農業分野にも進出するなど、従来のレンタルだけではない企業へと大きく成長しました。

そして、5月30日に発表した中期経営計画において、「トランスフォームにより新たな価値を創造し、業界の質的发展を牽引する企業グループを目指す」というビジョンを掲げ、企業グループを名実ともに未来志向で一変していくため、商号とロゴマークの変更に至りました。

尚、商号変更につきましては、本日開催の株主総会にて可決承認されました。

**デザインについて**  
「Tq」のロゴマークは、商号をアルファベットで記した文字列と、印象的なシンボルマークを合わせたデザインです。シンボルマークは、建設部材や仮設機材を想起させるとともに、日本古来の紋章に通じるシンプルかつ華やかなもので、当社が今後していく海外でも識別性・視認性の高いものとなっています。

らのコーポレートカラーである緑と青を引き継ぐことで、企業理念をはじめ業態と拡大の意味を含んでいます。従来の建築を中心とした分野から、将来の農一分野へのビジネス拡大も表現しています。

のロゴマークにも同様のシンボルマークを施し、グループとしての一体感や、強化し、将来にわたるタカミヤブランド構築を目指します。

社設立、建設工事用の木製足場を販売  
京へ本格進出、千葉県に5,000坪の機材センターを開設  
新設を受け、都市型土木工事へ進出  
キスダック証券取引所に上場  
新用システム構想「Ttロックシステム」を導入し、法面防災工事へ進出  
京証券取引所市場第二部へ上場  
東京都府中市、茨城県鹿嶋市（2017年9月）に営業所開設、プラント工事へ進出  
動昇降式足場「リフトクライマー」を導入し、超高層建物改修工事へ進出  
トドネル工事用仮設機材レンタル会社を買収、地下トンネル工事へ開始  
リーナ（現・吸収合併）の全株を取得し、製造から供給までの一貫体制を構築  
事業部を発足し、足場機材レンタルと施工をセットで提供するサービスを開始  
トナムに工場を新設、本格的なアジア展開を開始  
京証券取引所市場第一部に指定  
イリピンでの企業買収、海外でのレンタル事業を拡大  
業買収により、スタンレス型特種レンタル事業を開始  
H地方の農業ハウス販売事業を譲受し、農業分野へ本格進出

タカミヤ株式会社は、2019年の商号とロゴマーク変更をもとに、今後も新たな価値の質的发展を牽引する企業グループを目指します。



## 2. 連結業績（累計）

連結業績 (単位：百万円)	2019/3期 1Q 予想（非開示）		2019/3期 1Q 実績		前期実績 (2018/3期 1Q)		対前年 増減率
		売上高比		売上高比		売上高比	
売上高	-	-	9,725	-	8,761	-	+11.0%
売上総利益	-	-	2,508	25.8%	2,458	28.1%	+2.0%
販管費	-	-	2,252	23.2%	2,198	25.1%	+2.4%
営業利益	-	-	255	2.6%	259	3.0%	△1.7%
経常利益	-	-	316	3.3%	269	3.1%	+17.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	184	1.9%	202	2.3%	△9.1%
一株当たり純利益 (潜在株式調整後一株純利益)	-	-	4.30円 (4.17円)	-	4.74円 (4.60円)	-	-
一株当たり配当金	-	-	-	-	-	-	-
減価償却費 (CF計算書ベース)	-	-	1,174	12.1%	1,155	13.2%	+1.6%
EBITDA (利払い前・税引き前・減価償却前利益)	-	-	1,429	14.7%	1,415	16.2%	+1.0%

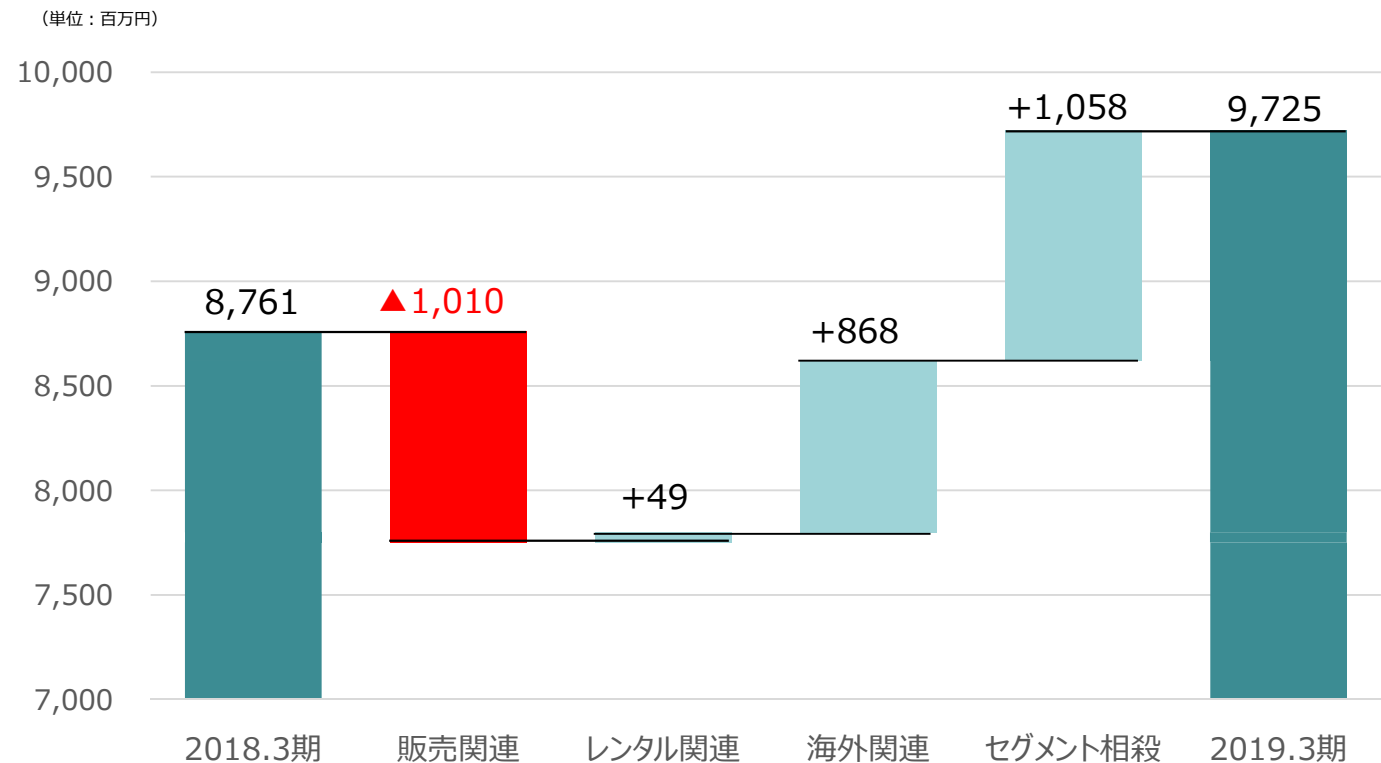


# 3.対前年同期比較

## 3.1 売上高

### セグメント間取引が減少

販売関連事業におけるセグメント間取引の減少により減収しましたが、他事業増収により、結果、944百万円の増収となりました。



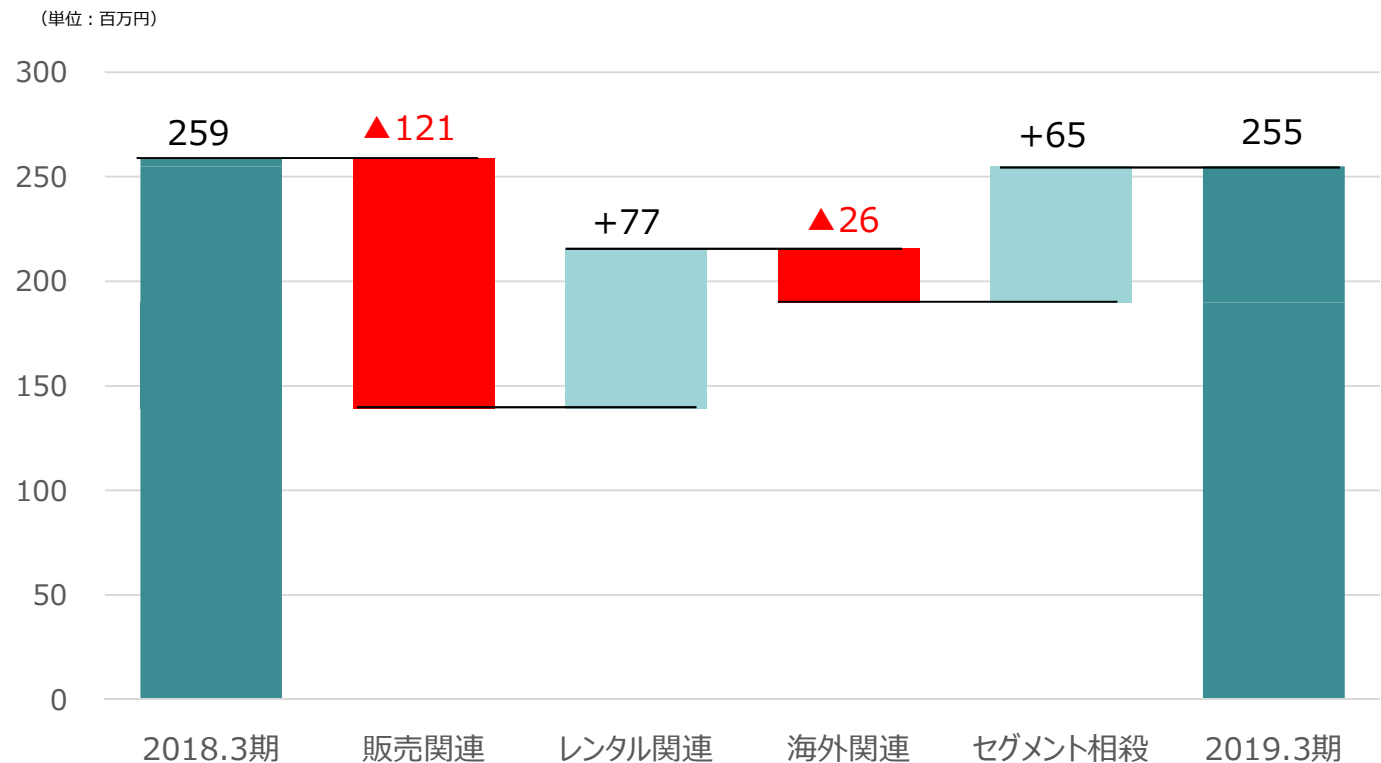


# 3.対前年同期比較

## 3.2 営業利益

### 海外での賃貸資産償却費増

販売関連事業のセグメント間取引が減少、また海外関連事業では、積極的な機材投資により賃貸資産償却費が増加、結果、4百万円の減収となりました。





# 4. 連結貸借対照表

## 【資産の部】

### 流動資産

現金及び預金／増加：486百万円

受取手形及び売掛金／減少：367百万円

### 固定資産

賃貸資産（純額）／減少：648百万円

機械装置及び運搬具（純額）／減少：50百万円

### 無形固定資産

のれん／減少：28百万円（DAI社、ナカヤ機材）

### 投資その他の資産

繰延税金資産（固定）／増加：140百万円

## 【負債の部】

支払手形及び買掛金／増加：626百万円

短期借入金／減少：573百万円

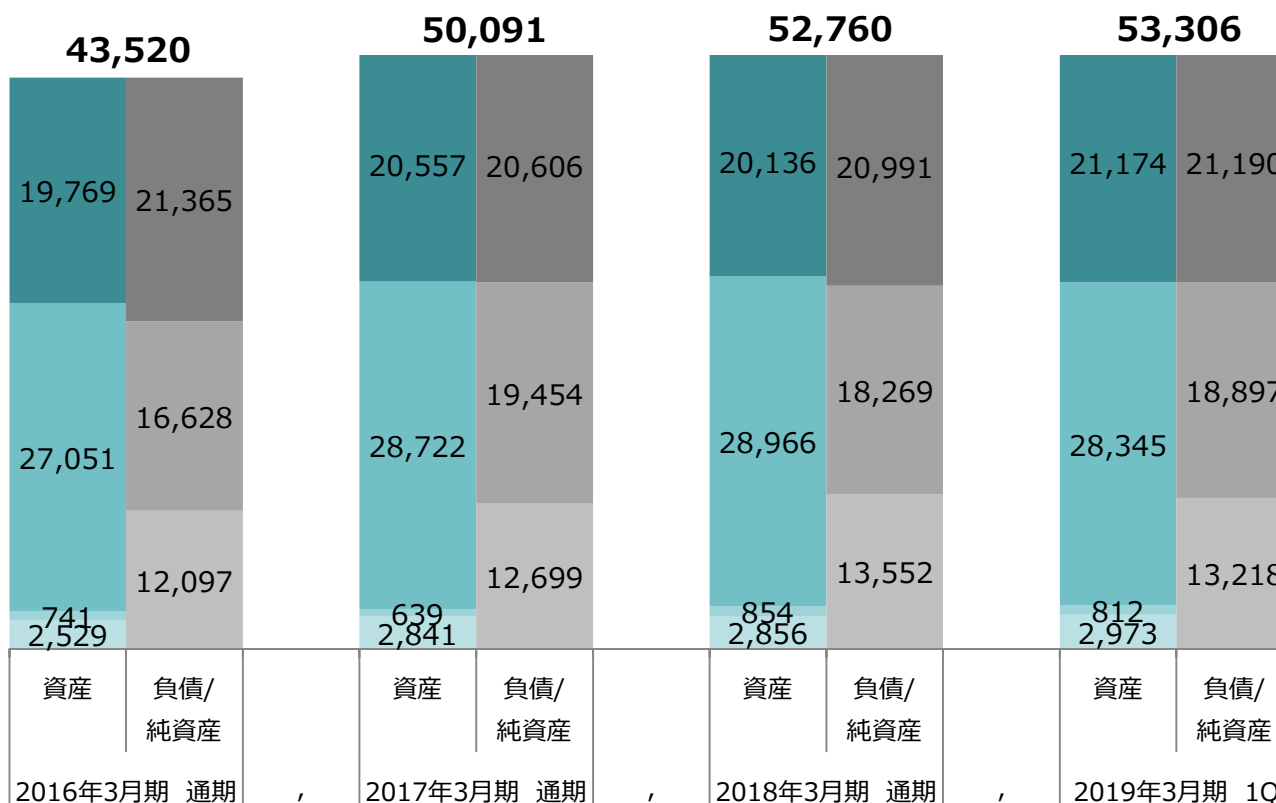
長期借入金／増加：472百万円

## 【純資産の部】

利益剰余金／減少：115百万円

為替換算調整勘定／減少：224百万円

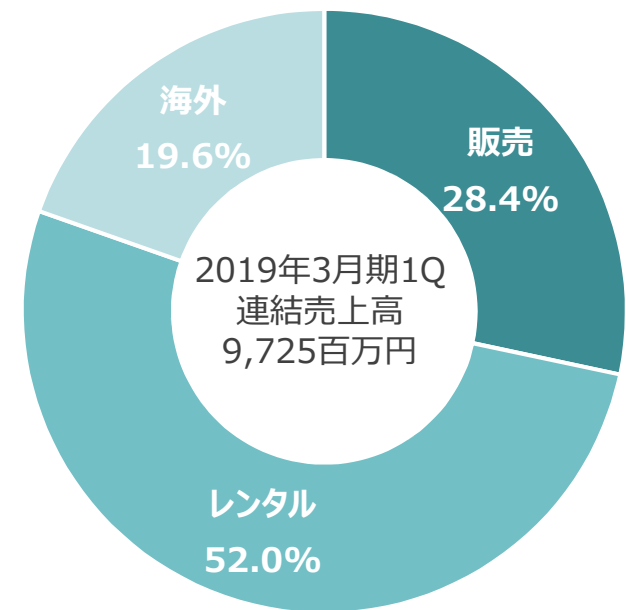
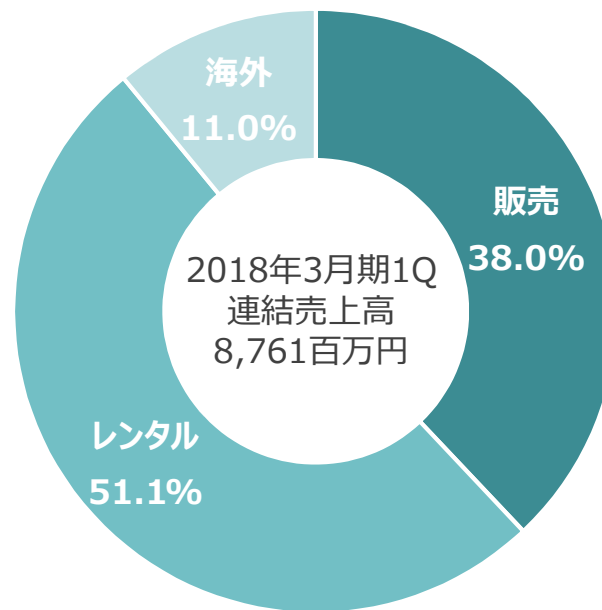
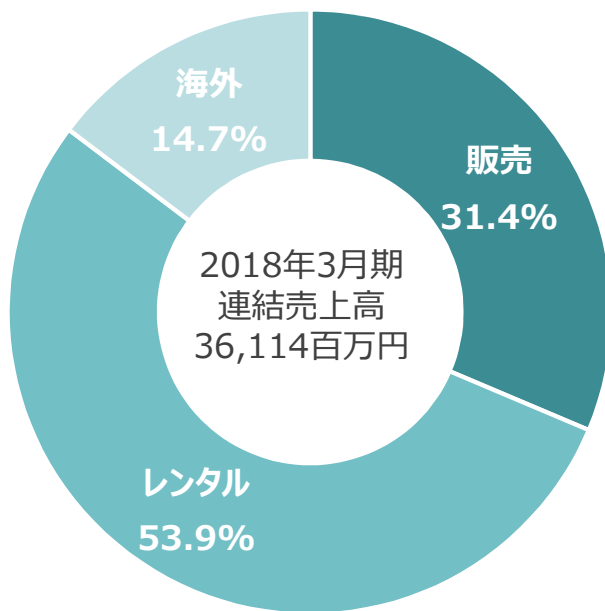
■ 投資その他の資産 ■ 無形固定資産 ■ 有形固定資産 ■ 流動資産 ■ 純資産 ■ 固定負債 ■ 流動負債





## 5.セグメント別売上高比率

海外関連事業の増加は、積極的な機材投資と韓国子会社の増収が主要因です。

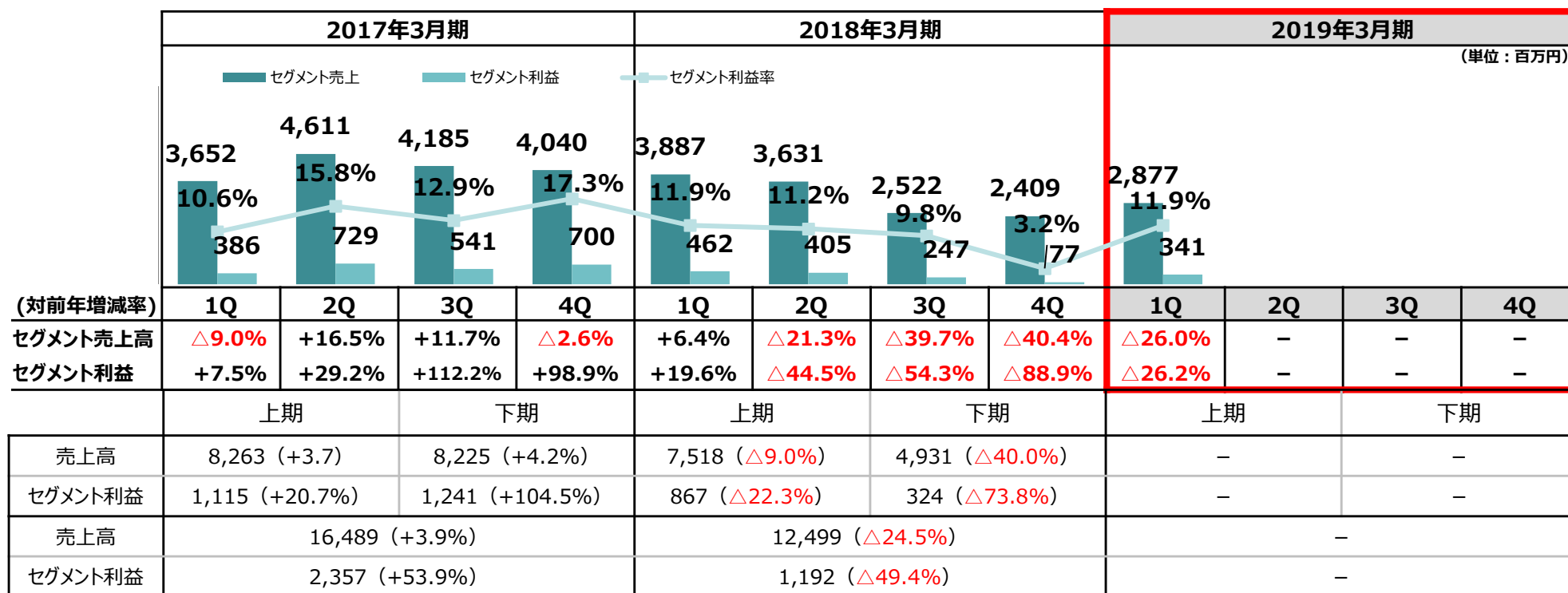


※「セグメント別売上高比率」はセグメント間消去前の売上高で算出しています。



# 6.販売関連事業

## 6.1 会計期間



※セグメント売上高、セグメント利益は内部取引を含む値です





# 6.販売関連事業

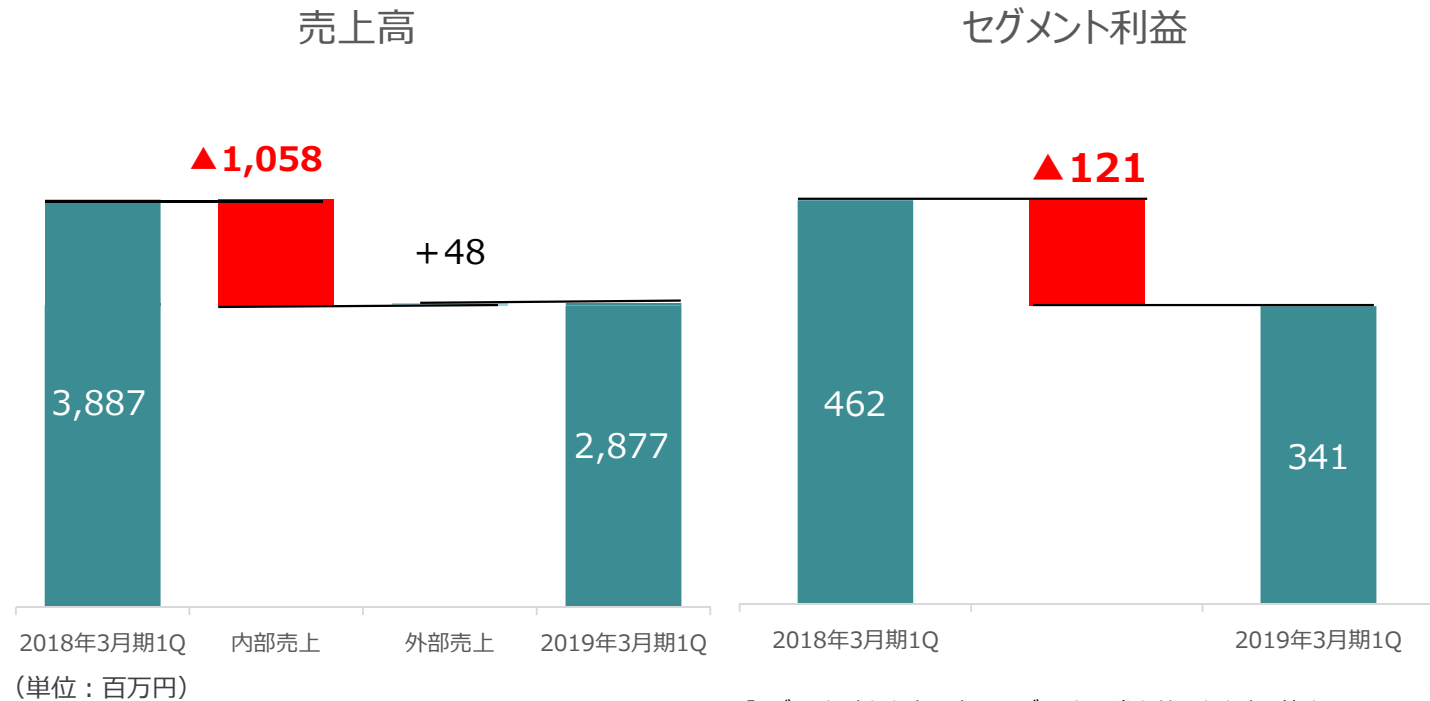
## 6.2 対前年同期比較

### 売上高

1,010百万円の減収。  
子会社であったホリーを吸収合併したことにより、セグメント間取引（内部売上）が減少しました。

### 営業利益

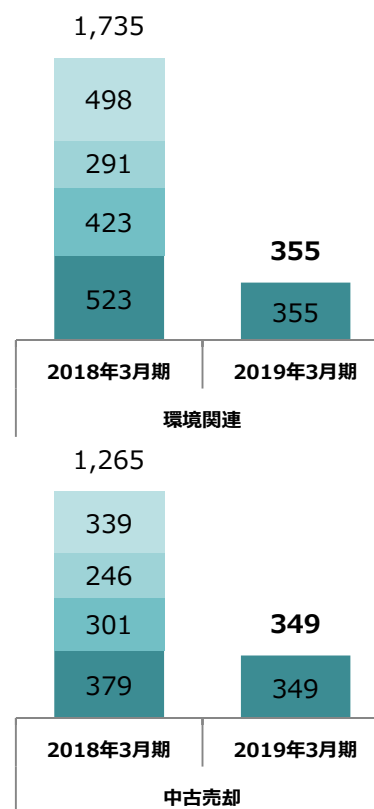
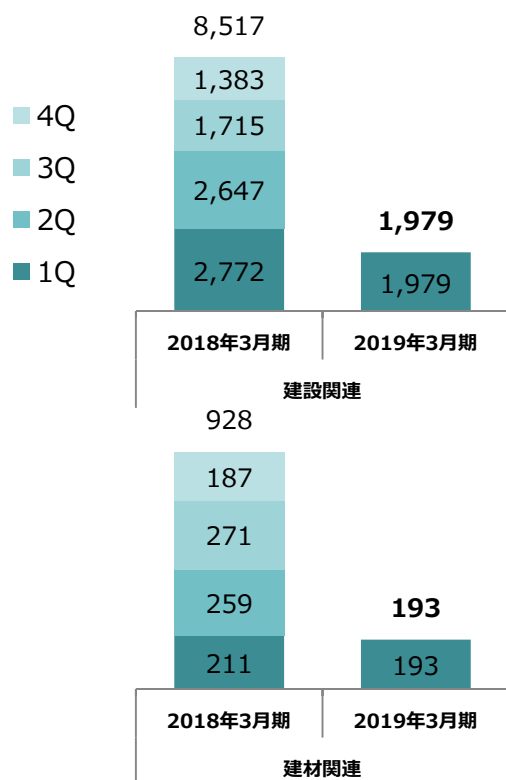
121百万円の減益。  
減収により減益しました。





# 6.販売関連事業

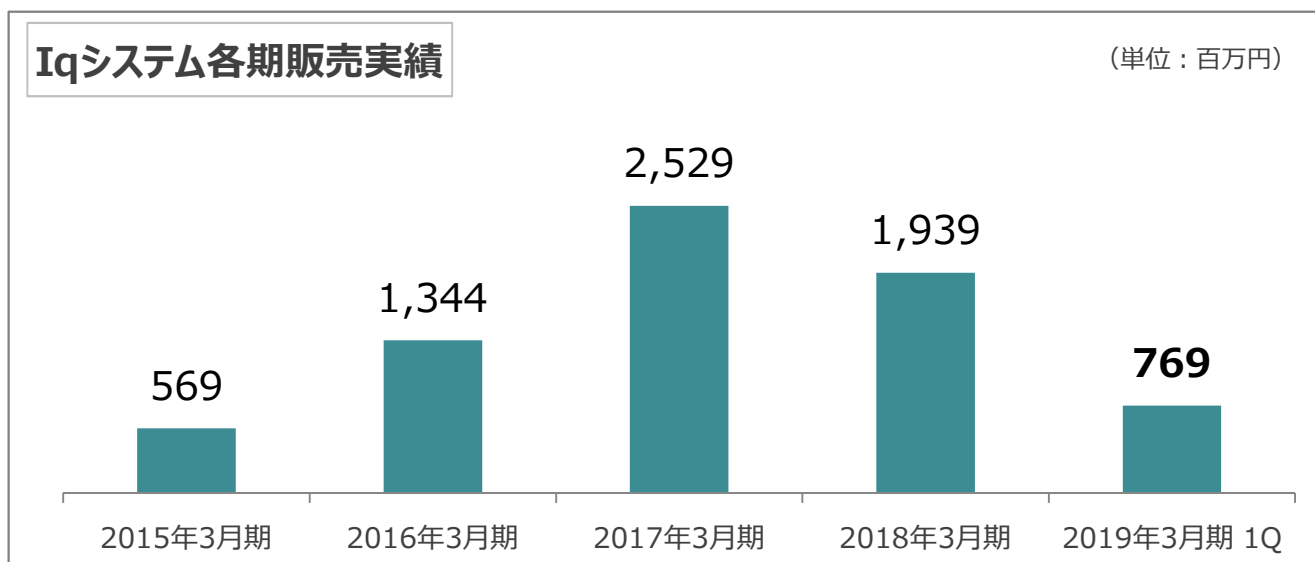
## 6.3 分野別売上高





## 6.販売関連事業

### 6.4 Iqシステム普及状況



**Iqシステム販売売上高推移**

(単位：百万円)	2015.3期	2016.3期	2017.3期	2018.3期	2019.3期 1Q
累計販売実績	<b>569</b>	<b>1,913</b>	<b>4,442</b>	<b>6,381</b>	<b>7,150</b>

**Iqシステム m<sup>2</sup>数：452万m<sup>2</sup>**

(賃貸資産保有：274万m<sup>2</sup>  
+ 累計販売実績：178万m<sup>2</sup>)

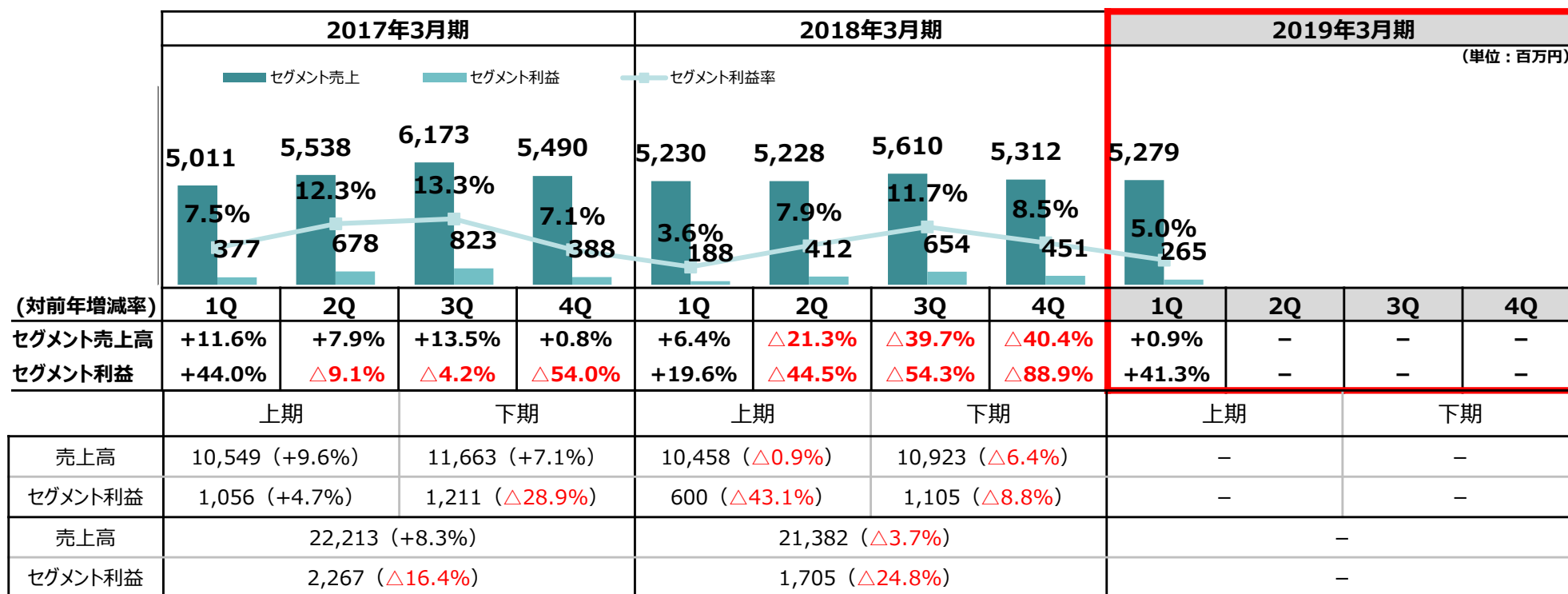
※Iqシステム支柱長\*÷2×1.8m  
で当社が試算。

\*当社保有資産+販売実績より算出。



# 7. レンタル関連事業

## 7.1 会計期間



※セグメント売上高、セグメント利益は内部取引を含む値です



# 7. レンタル関連事業

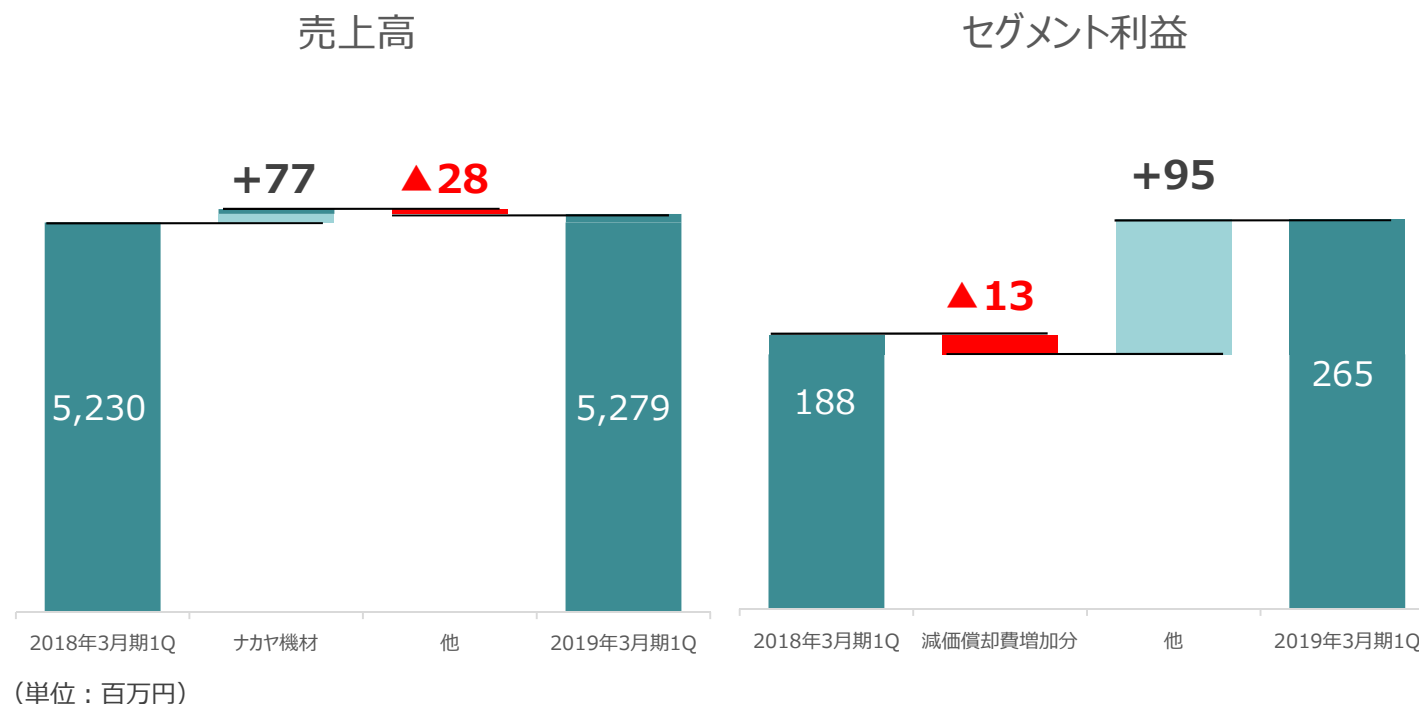
## 7.2 対前年同期比較

### 売上高

49百万円の増収。  
前期グループ化した「ナカヤ機材」の売上高を除けば、28百万円の減収となりました。

### 営業利益

77百万円の増益。  
賃貸資産償却費が横ばい、レンタル収入が増加、工事売上と値引きが減少しました。販管費は微増に留まり増益となりました。



※「セグメント別売上高比率」はセグメント間消去前の売上高で算出しています。

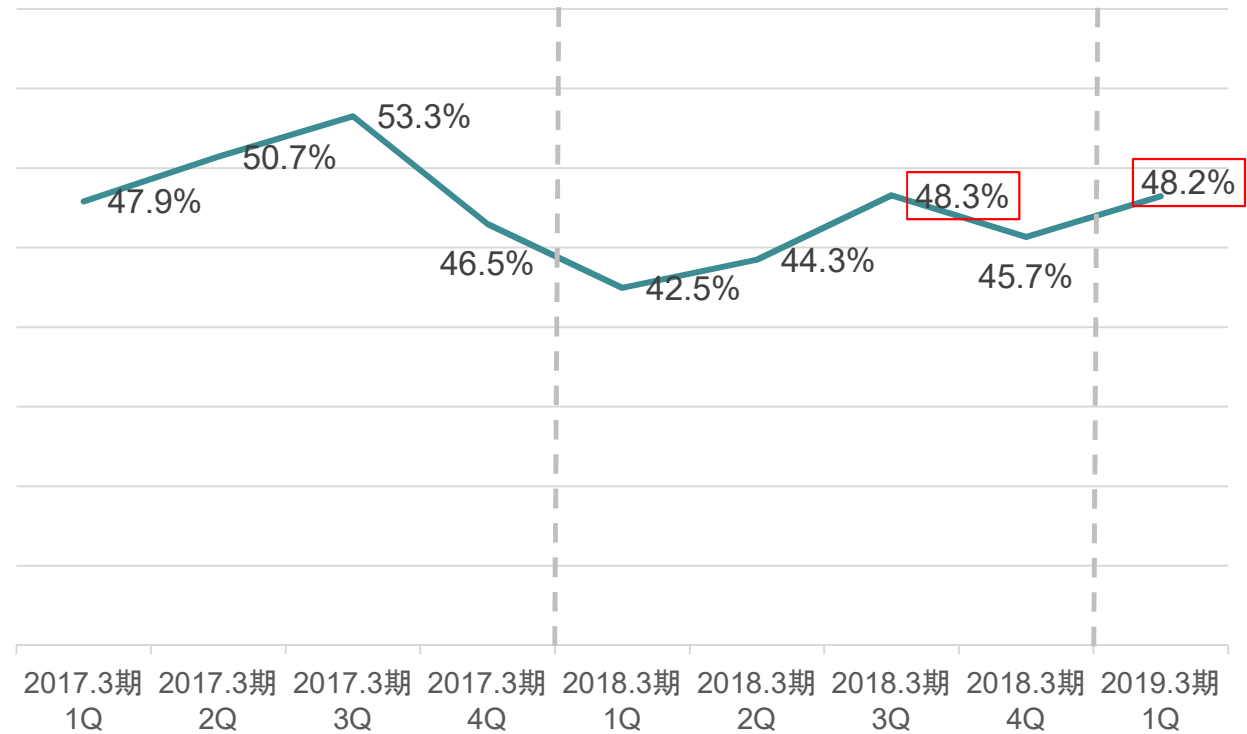


# 7. レンタル関連事業

## 7.3 機材平均稼働率推移

### 前期ピーク時と同等

機材稼働のピークである2018年3月期3Qと同等の 48.2% をマークしました。例年通りであれば、3Q まで上昇していきますが、下降するリスクもありますので楽観せず営業活動を進めます。

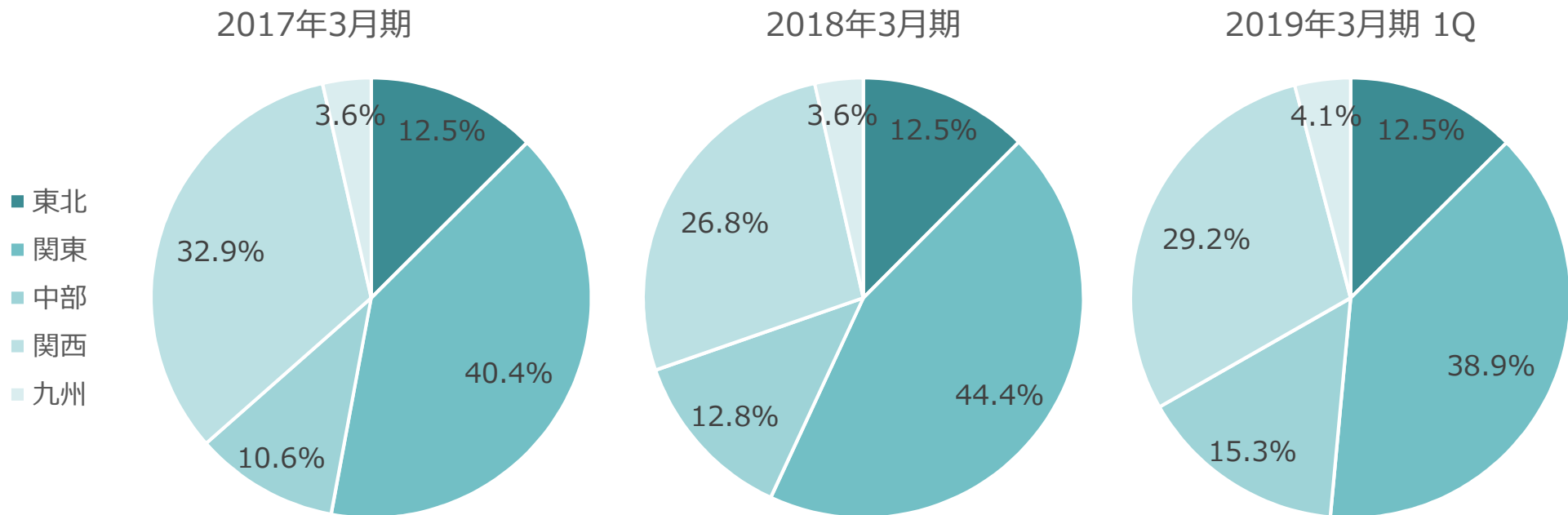




# 7. レンタル関連事業

## 7.4 ブロック別売上比率

連結子会社の吸収合併により関東ブロックの比率が減少しました。



※中四国ブロックは関西ブロックに含まれています。

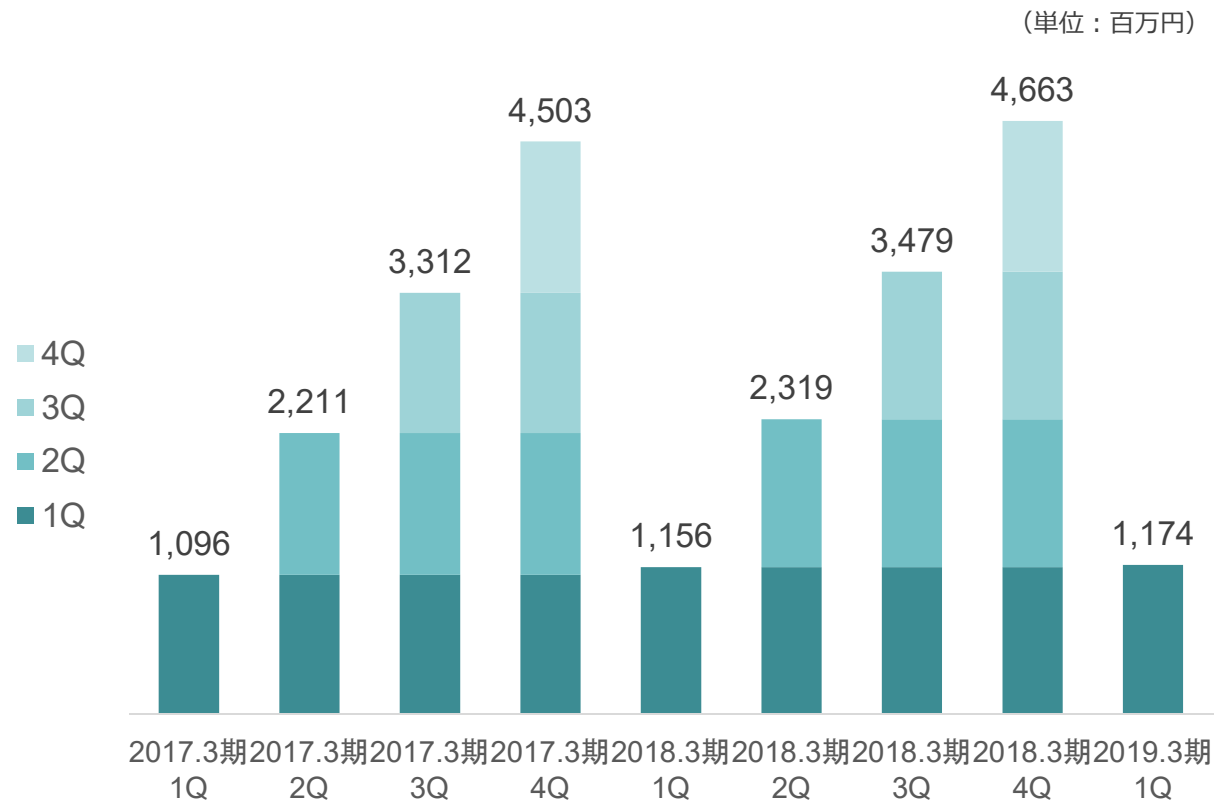


# 7. レンタル関連事業

## 7.5 減価償却費推移

### 今期ピーク予定

減価償却費の多くを占める賃貸資産償却費（8年定額）は、2013年より「Iqシステム」を導入し、関連部材への投資もあり増加傾向にありました。





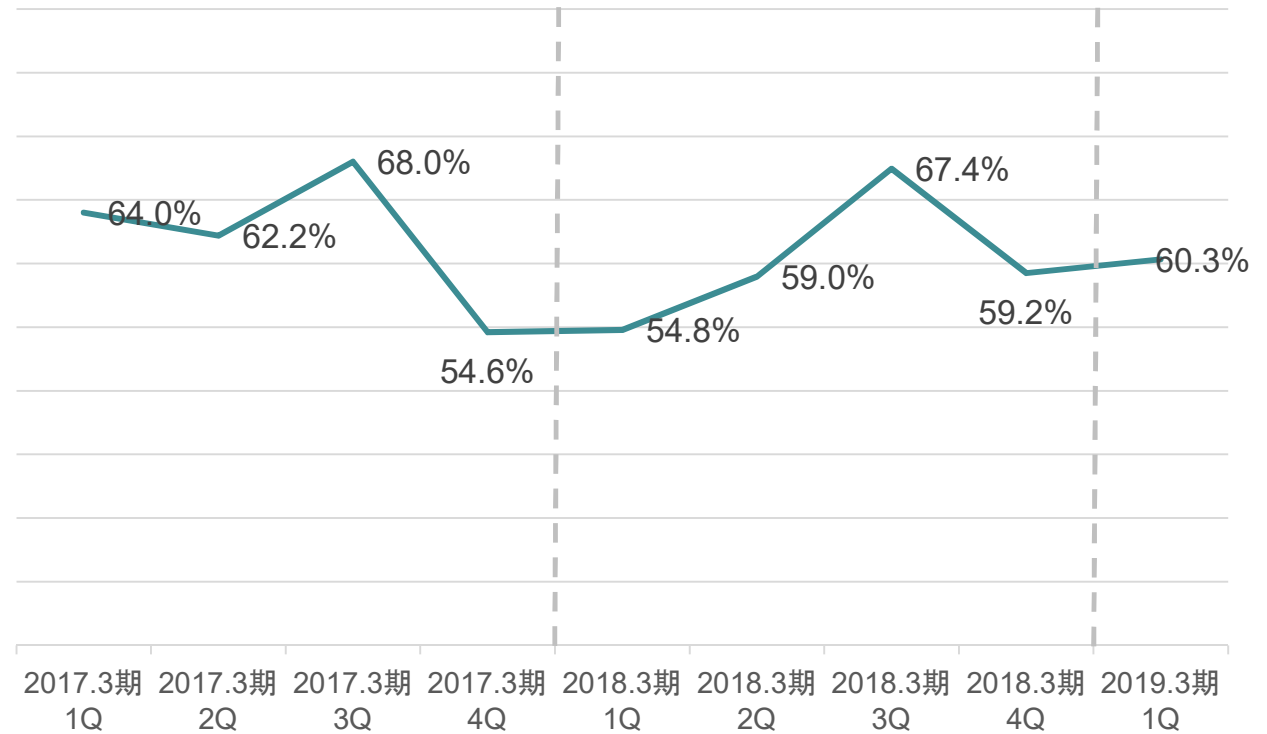


# 7. レンタル関連事業

## 7.6 Iqシステム 平均稼働率推移

### 堅調に高稼働を推移

今期1Qも60%を超える稼働率を維持し、他  
機材と比べて高稼働を維持しています。



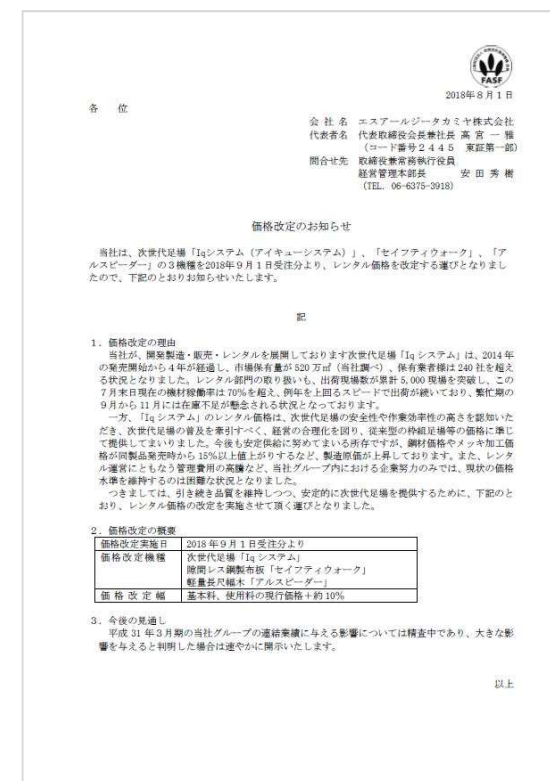


# 7. レンタル関連事業

## 7.7.1 価格改定のお知らせ

### 価格改定の概要

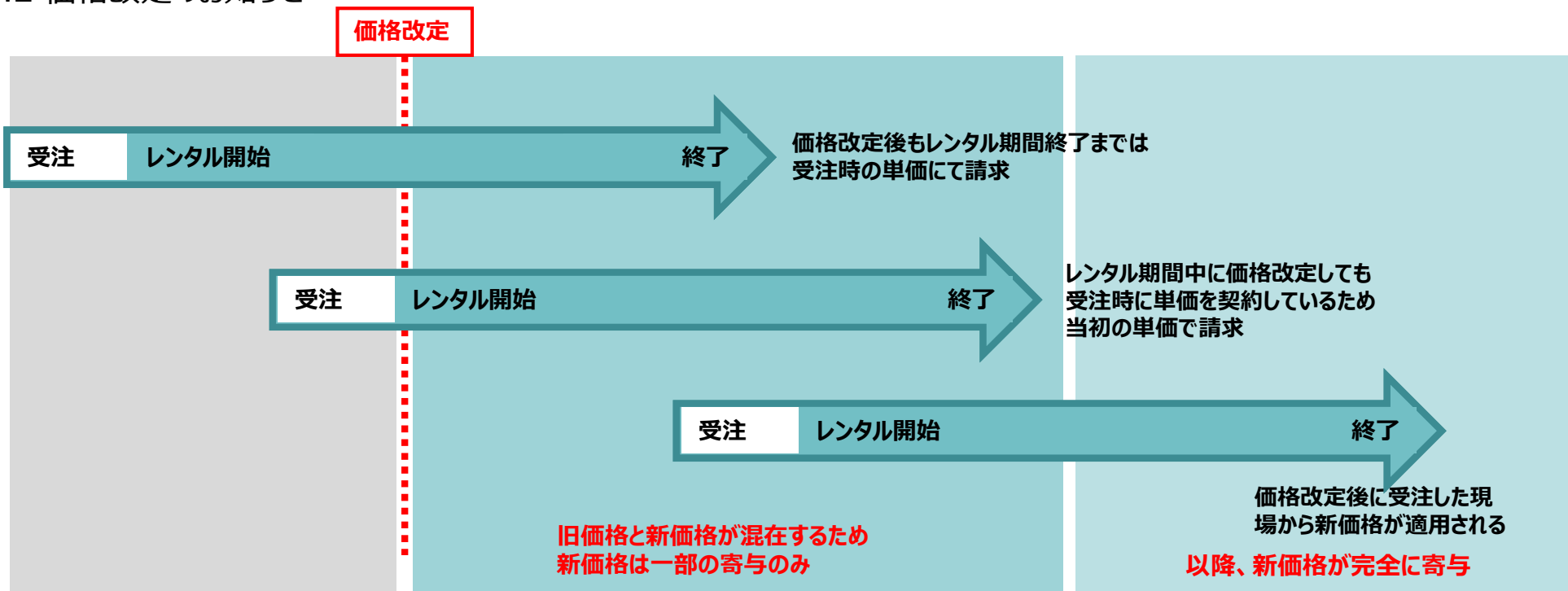
価格改定実施日	2018年9月1日受注分より
価格改定機種	次世代足場「Iqシステム」 隙間レス鋼製布板「セーフティウォーク」 軽量長尺幅木「アルスピーダー」
価格改定幅	基本料、使用料の現行価格 + 約10%
価格改定理由	鋼材価格やメッキ加工価格が次世代足場「Iqシステム」発売時と比べ、15%以上値上がりし製造原価が上昇しました。また、レンタル運営にともなう管理費用の高騰など、当社グループ内における企業努力のみでは、現状の価格水準を維持するのは困難な状況となりました。引き続き品質を維持しつつ、安定的に次世代足場を提供するために、レンタル価格の改定を実施させていただく運びとなりました。





# 7. レンタル関連事業

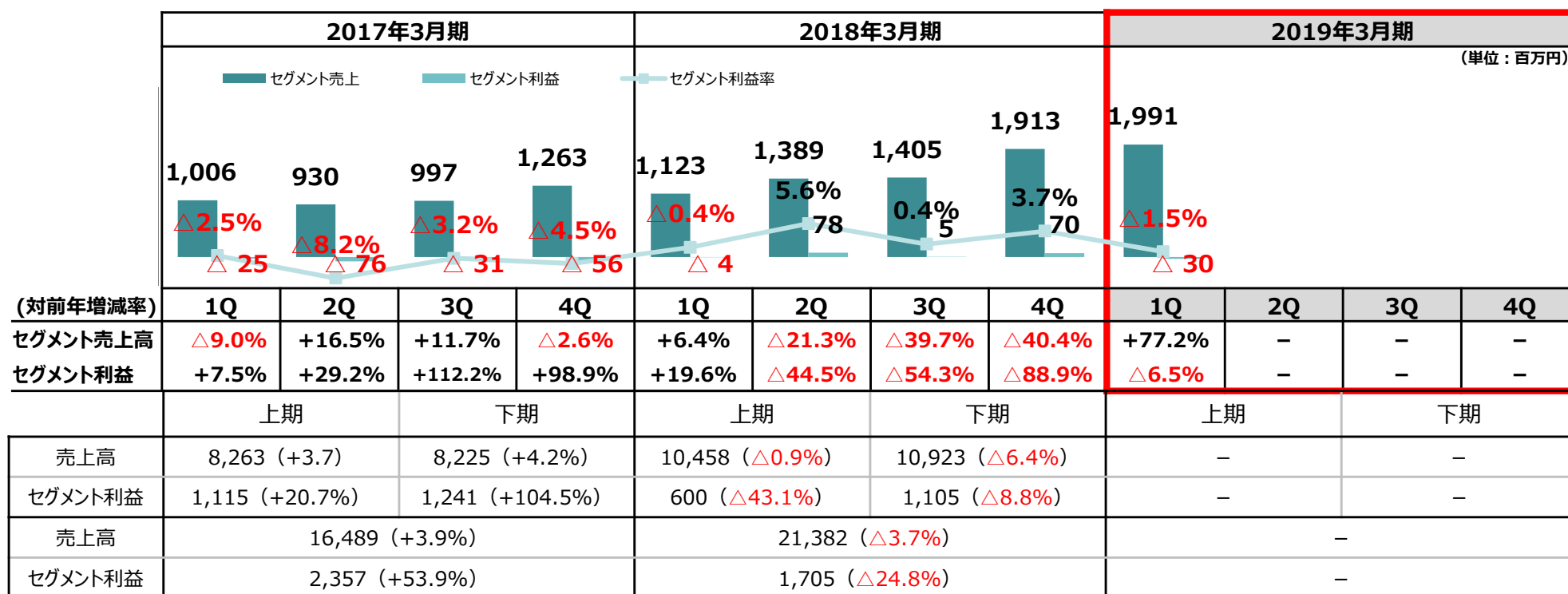
## 7.7.2 価格改定のお知らせ





# 8. 海外関連事業

## 8.1 会計期間



※セグメント売上高、セグメント利益は内部取引を含む値です



# 8.海外関連事業

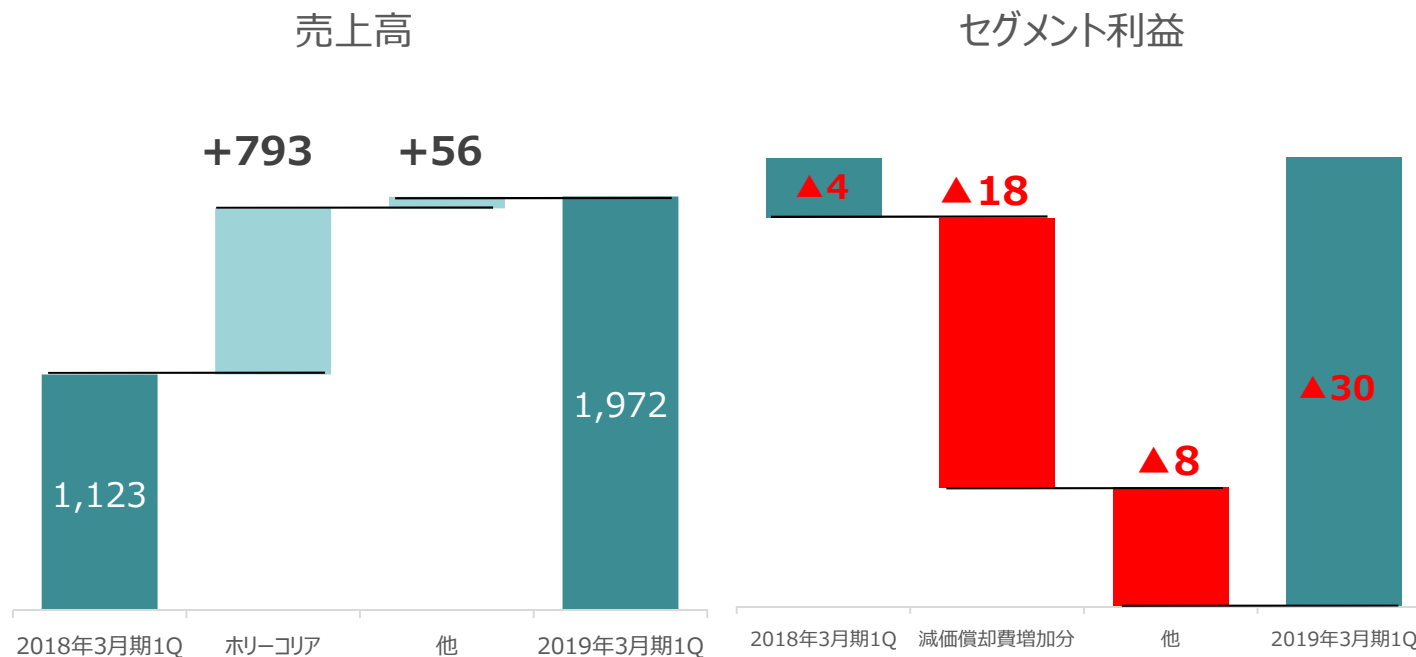
## 8.2 対前年同期比較

### 売上高

849百万円増収。  
ホリーコアの太陽光関連事業が  
復調しました。

### 営業利益

26百万円減益。  
増収したものの、将来に向けた事  
業拡大のため、ホリーコア、DAI  
社での積極的な機材投資による  
賃貸資産償却費の増加、販管費  
増により減益となりました。



(単位：百万円)

※「セグメント別売上高比率」はセグメント間消去前の売上高で算出しています。



## 9.2019年3月期 業績予想

(単位：百万円)	2019年3月期				(ご参考) 2018年3月期 実績
	第2四半期	前年同期比	通期	前年同期比	
売上高	19,500	+9.1%	41,000	+13.5	36,114
営業利益	900	+11.9%	2,500	+47.8%	1,690
経常利益	780	△7.2%	2,230	+38.5%	1,610
親会社株主に帰属する 当期純利益	393	△35.4%	1,333	+6.5%	1,252
1株当たり当期純利益	9.17円		31.11円		29.26円



## 10.株主還元の様況

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期予想	2019年3月期予想
<b>配当金</b>	<b>10円</b>	<b>10円</b>	<b>11円</b>	<b>11円</b>
内訳) 1Q	-	-	-	-
2Q	3.5円	3.5円	4.0円	4.0円
3Q	-	-	-	-
4Q	6.5円	6.5円	7.0円	7.0円
配当金額総額	442百万円	428百万円	471百万円	-
配当性向	20.8%	28.5%	37.6%	35.4%
自社株買入	702百万円	529百万円	0百万円	-
総還元性向	53.1%	63.2%	37.6%	-
ROE	18.5%	12.6%	9.8%	-



# 参考資料

2018/08/28

エスアールジータカミヤ株式会社  
〒530-0011  
大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB27階





# 1. 会社概要

商号	エスアールジータカミヤ株式会社
設立	1969年6月21日
代表者	代表取締役会長兼社長 高宮一雅
資本金	7億3,109万円
従業員数	連結：1,185名 単体：662名 ※2018年6月末時点、臨時従業員を除く
登記本社 営業拠点	大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB 27階 【支店】東北仙台、茨城、東京、新潟、名古屋、大阪、中四国、九州福岡（計8） 【営業所】札幌、盛岡、福島、つくば、鹿島、市原、北陸、福井、長野、静岡、京滋、広島、沖縄（計13） 【機材センター】青森東通、岩手盛岡、宮城仙台、宮城仙台第二、福島広野、新潟横越、新潟東港、新潟県央、茨城中央、茨城つくば、茨城出島、茨城鹿島、千葉大木戸、千葉市原、埼玉久喜、神奈川愛川、信州長野、静岡吉田、石川金沢、福井鯖江、東海木曾岬、滋賀近江八幡、大阪枚方、大阪摂津、大阪岸和田、和歌山桃山、兵庫東条、広島志和、香川さぬき（計29）
連結子会社	<国内：7社> (株)イワタ、(株)ヒラマツ、(株)青森アトム、(株)トータル都市整備、(株)ネクステック(株)キャディアン、(株)ナカヤ機材 <海外：3社> ホリーコリア(株)、ホリーベトナム(有)、DIMENSION-ALL INC.（計10社）
株式上場	2005年06月 JASDAQ証券取引所（注）2008年1月 JASDAQ市場への上場は廃止しました 2007年12月 東京証券取引所市場第二部 2014年12月 東京証券取引所市場第一部指定



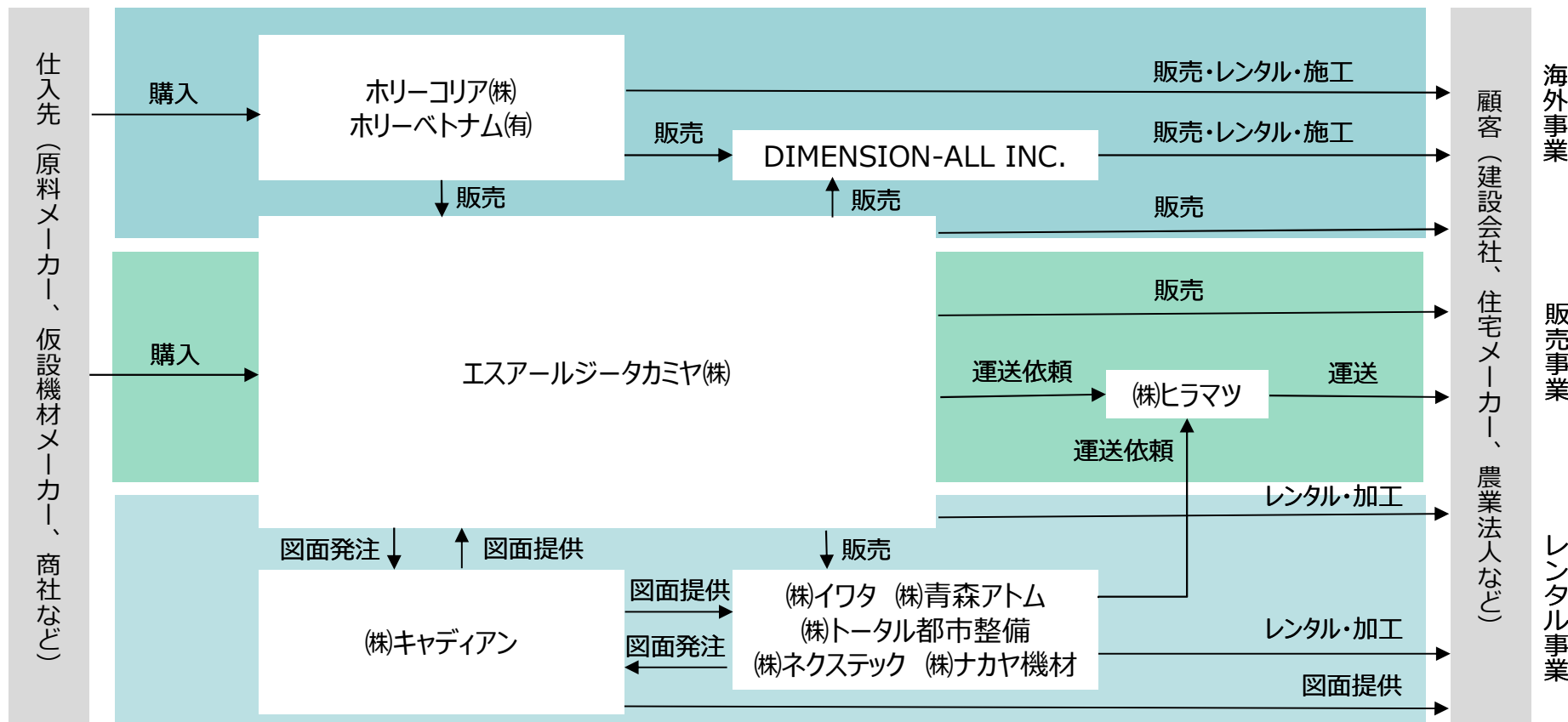


## 2.沿革

- 1969 6月 仮設資材の売買を目的として、大阪市東淀川区に(株)新関西を設立。
- 1998 3月 大阪市北区に仮設図面設計の(有)テクノ工房（現・連結子会社、商号を(株)キャディアンに変更）を設立。
- 2004 10月 静岡県榛原郡榛原町に(株)ヒラマツ（現・連結子会社、現・静岡県牧之原市）を設立。
- 2005 6月 (株)ジャスダック証券取引所上場。
- 2007 12月 (株)東京証券取引所市場第二部上場。
- 2008 10月 青森県下北郡東通村に仮設機材レンタルの(株)青森アトム（現・連結子会社）を設立。
- 2009 8月 名古屋市中川区の(株)石島機材製作所(現・(株)トータル都市整備)の全株式を取得し、連結子会社とする。
- 2010 9月 ホリー(株)の発行済株式の100%を取得。同社及び同社の100%子会社であるホリーコア(株)を連結子会社とする。
- 2013 8月 ベトナム社会主義共和国にホリーベトナム(有)（現・連結子会社）を設立。
- 2014 12月 (株)東京証券取引所市場第一部に指定。
- 2015 7月 アルミ製のシステム型枠の販売・レンタルのDIMENSION-ALL INC.（フィリピン共和国パシッグ市）を連結子会社とする。
- 2018 1月 ホリー(株)（連結子会社）を吸収合併。
- 2018 2月 島根県松江市の(株)ナカヤ機材の全株式を取得し、連結子会社とする。



### 3.事業系統図





## 4.販売関連事業 取扱機材

 <p>建設関連</p>	 <p>建設関連</p>	 <p>建設関連</p>	 <p>建設関連</p>
<p><b>継手 (クランプ)</b> あらゆる建設工事で使用する汎用部材</p>	<p><b>次世代足場 (Iqシステム)</b> 従来の枠組足場に換わる高性能の足場材</p>	<p><b>吊り足場 (スパイダーパネル)</b> 主に橋梁工事で使用される、チェーンで吊り下げる足場材</p>	<p><b>安全部材</b> 先行手すり、巾木、手すり部材など</p>
 <p>建材関連</p>	 <p>環境関連</p>	 <p>環境関連</p>	 <p>中古売却</p>
<p><b>木造住宅用制振装置</b> ホリー社オリジナル。新築、既築ともに対応</p>	<p><b>太陽光発電パネル架台</b> 住宅用、産業用のパネル架台の販売</p>	<p><b>農業用グリーンハウス</b> 農業用のパイプハウス、鉄骨製ハウス (グリーンハウス)</p>	<p><b>仮設機材</b> 新品、中古機材の仕入販売。賃貸資産の処分</p>



## 5. レンタル関連事業 対応工事分野



### 建築（新築・維持補修）

ビル、マンション、学校、病院倉庫  
や商業施設等



### 橋梁（新築・維持補修）

高速道路、鉄道、高架橋、橋等



### トンネル・地下工事

地下鉄、パイプライン、共同溝な  
どシールド工事



### プラント

処理場・焼却炉、プラントの建  
設・メンテナンス等



### 高層建物維持補修工事

超高層建物の維持補修・メンテ  
ナンス、解体等



### 解体工事

立替え、補修にともなう、建造物  
の解体等



### 斜面防災工事

地滑り、土砂災害を未然に防ぐ  
防災工事等



### 港湾（防潮堤等）

高波、高潮、津波被害を防ぐ防  
潮堤の建設工事



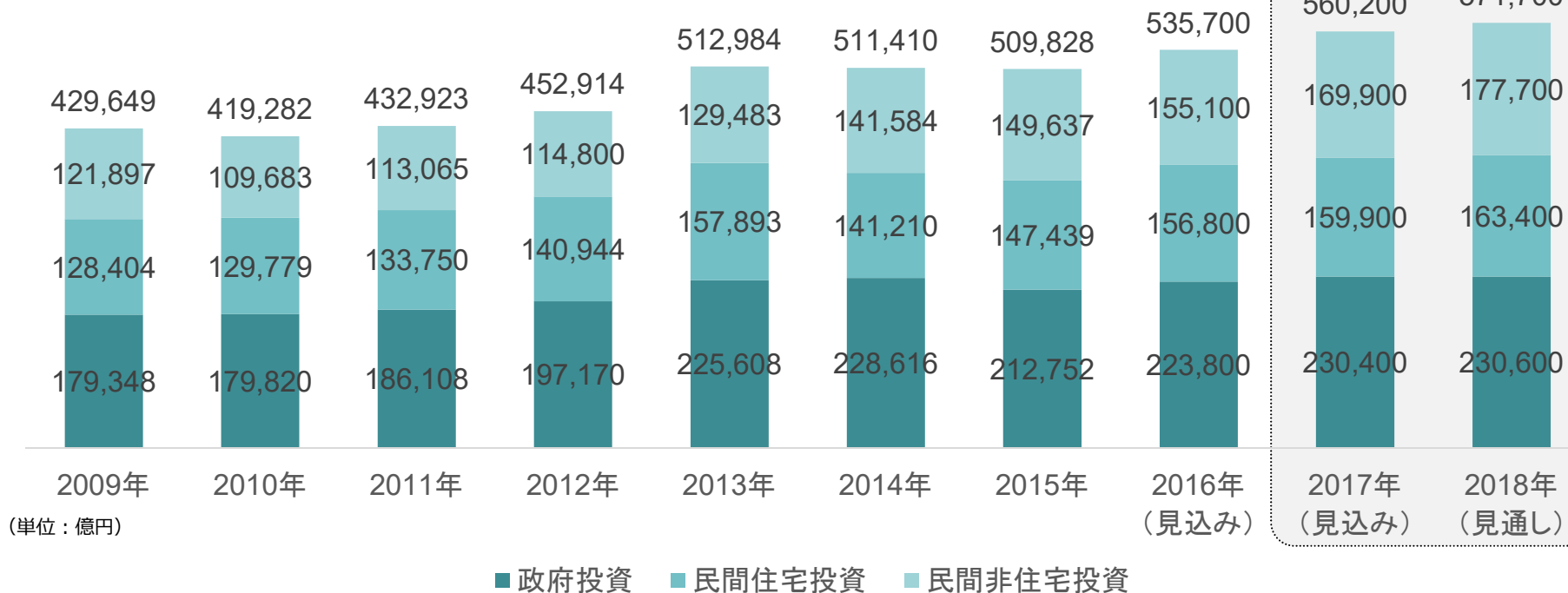
## 6. 海外関連事業 進出国と事業内容

ホリーコア株式会社	ホリーベトナム有限公司	DIMENSION-ALL INC.
		※フィリピン  ※カランバヤード
<p>建設用仮設機材や太陽光パネル設置架台の製造・販売・レンタルを行っており、太陽光パネル設置架台の需要が根強く続いています。</p>	<p>日本国内向けクランプや東南アジア向けクランプ、仮設機材の製造を行っています。汎用性の高い製品の開発製造体制を目指します。</p>	<p>建設用型枠・支保工の販売・レンタルを行っています。フィリピン国内にて旺盛な建設需要があり、非常に高い稼働率を誇っています。</p>



# 7.国内建設投資額推移

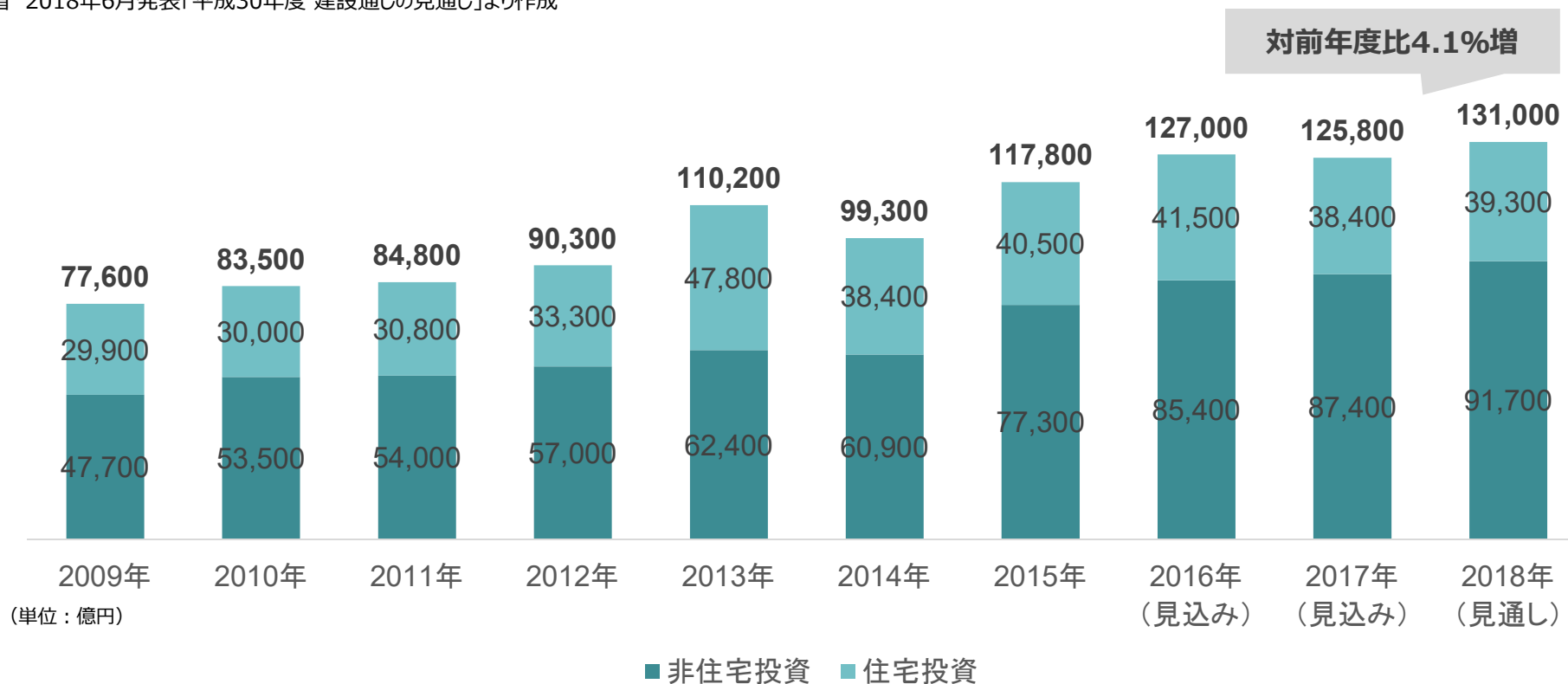
※建設経済研究所 2018年6月発表  
「建設経済モデルによる建設投資の見通し(2018年6月)」より作成





## 8.国内建設物リフォーム・リニューアル投資額推移

※国土交通省 2018年6月発表「平成30年度 建設通しの見通し」より作成



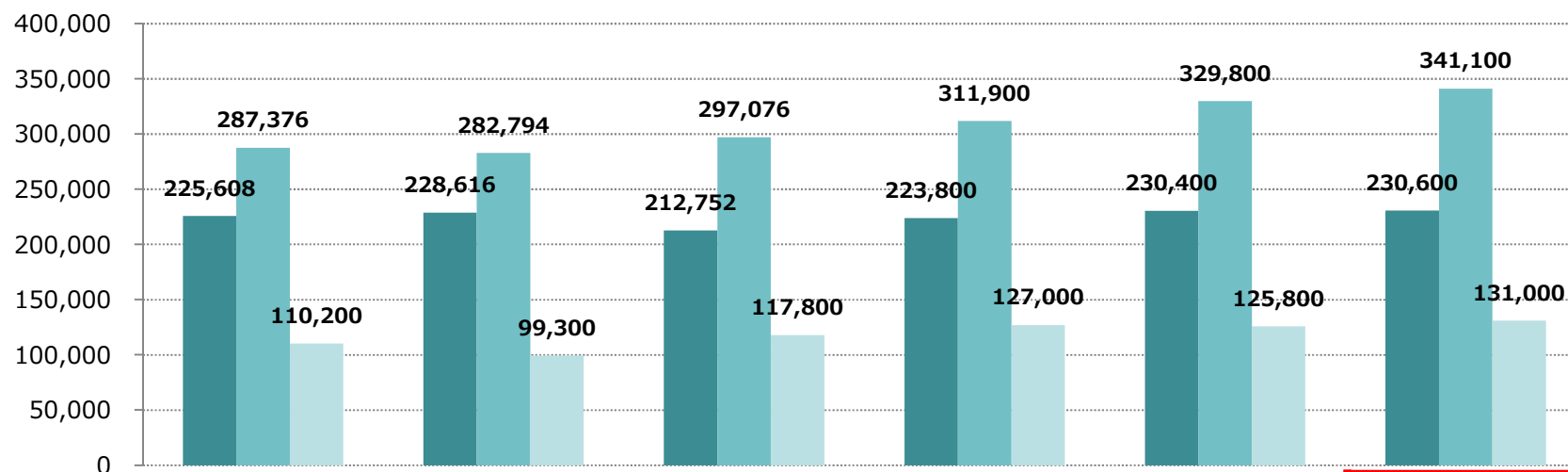
(単位：億円)





## 9.国内建設投資の状況

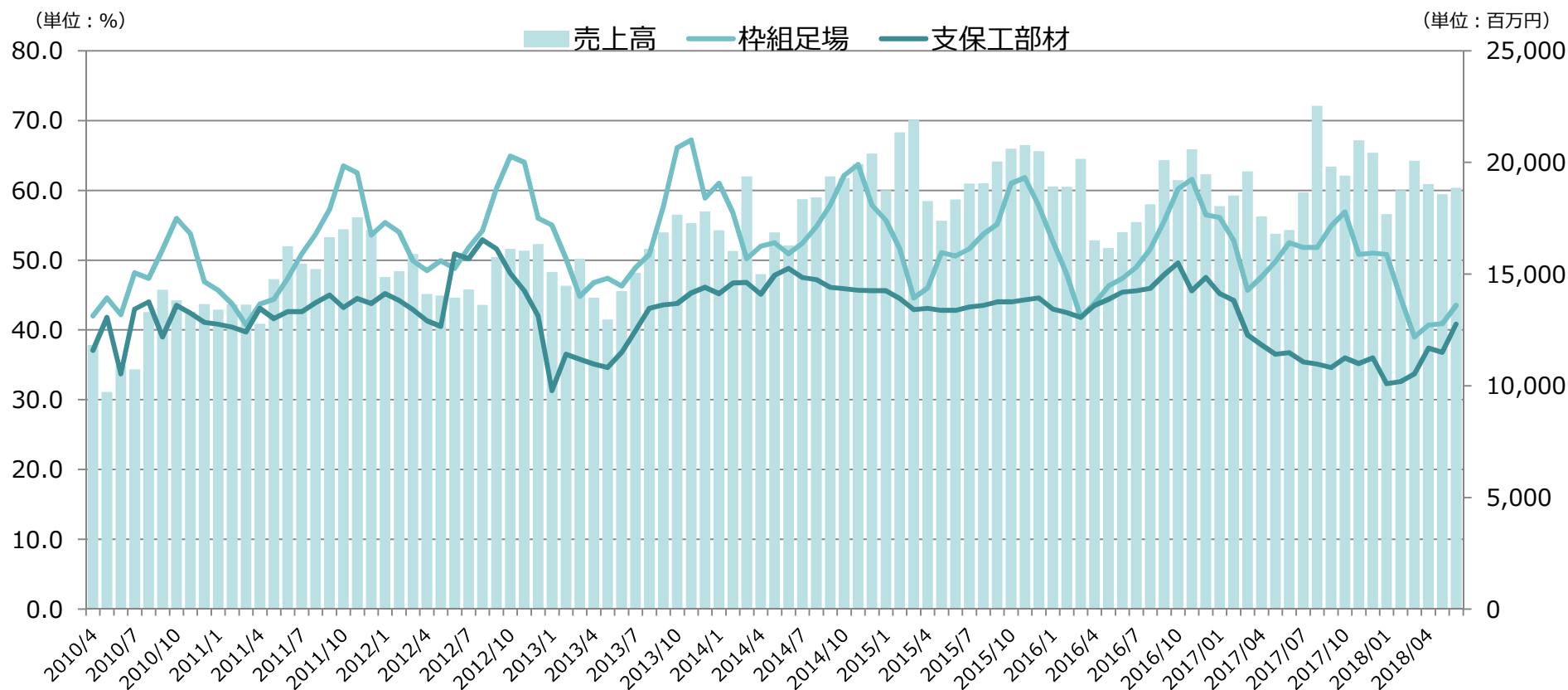
■ 建設投資額（政府） ■ 建設投資額（民間） ■ 建築物リフォーム・リニューアル投資 (単位：億円)



前年度比成長率	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度（見込み）	2017年度（見込み）	2018年度（見通し）
建設投資額（政府）	14.4%	1.3%	-6.9%	5.2%	2.9%	0.1%
建設投資額（民間）	12.4%	-1.6%	5.1%	5.0%	5.7%	3.4%
リフォーム・リニューアル投資	22.0%	-9.9%	18.6%	7.8%	-0.9%	4.1%



# 10. 軽仮設リース業50社の機材稼働率と売上高の推移

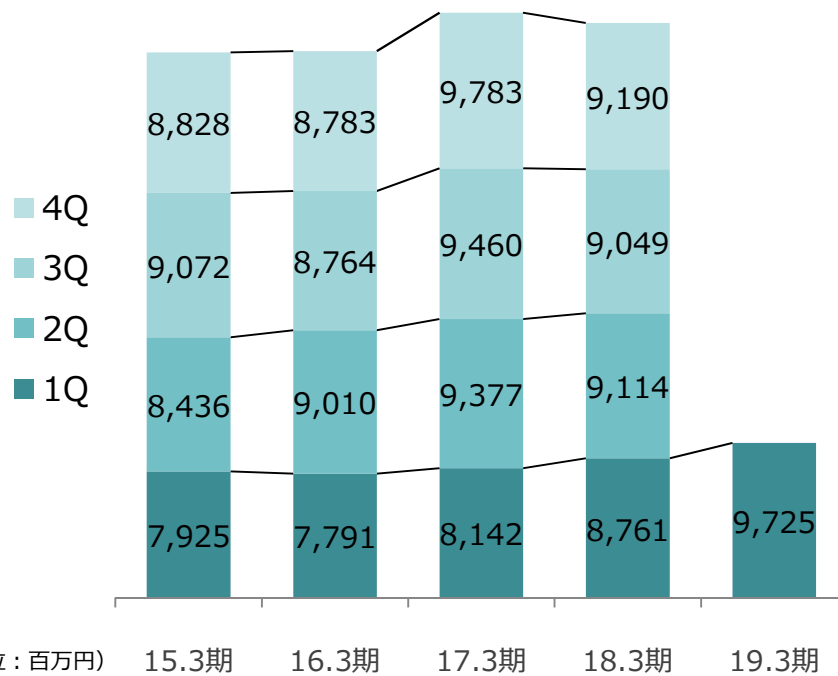


※出所：国土交通省「建設機械器具リース業等の動態調査時系列」を加工

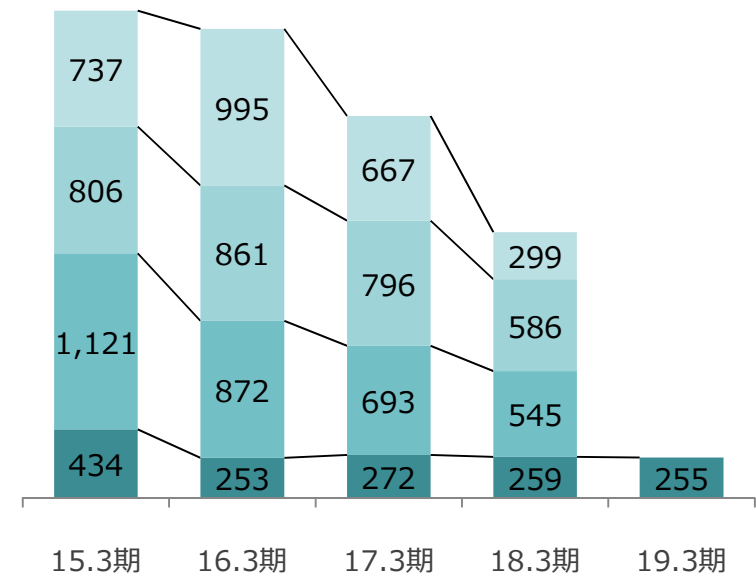


# 11.業績の推移

## 売上高の推移



## 営業利益の推移



(単位：百万円)



## 12. 海外市場推移

国名	(十億ドル) (百万人)	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
日本	名目GDP	6,203	5,155	4,850	4,394	4,949	4,872	5,167	5,362	5,498	5,641
	人口	127	127	127	126	126	126	126	126	125	125
韓国	名目GDP	1,222	1,305	1,411	1,382	1,411	1,498	1,693	1,777	1,863	1,957
	人口	50	50	50	51	51	51	51	51	52	52
タイ	名目GDP	397	420	407	401	411	455	483	520	550	581
	人口	67	68	68	68	68	69	69	69	69	69
ベトナム	名目GDP	155	170	185	191	201	220	240	264	290	316
	人口	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97
フィリピン	名目GDP	250	271	284	292	304	313	332	355	392	430
	人口	96	98	99	101	103	105	107	109	111	113
シンガポール	名目GDP	290	304	311	304	309	323	349	367	385	401
	人口	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
マレーシア	名目GDP	314	323	338	296	296	314	364	402	439	478
	人口	29	30	30	31	31	32	32	32	33	33
ミャンマー	名目GDP	59	60	65	59	63	66	70	74	83	91
	人口	50	50	51	51	52	52	52	53	53	53
インドネシア	名目GDP	919	916	891	860	932	1,015	1,074	1,152	1,247	1,340
	人口	245	248	252	255	258	261	265	268	272	275

※出所：IMF “World Economic Outlook Database” より作成 / 着色セルは予測値



## 13. 連結業績の推移

	2008.3期	2009.3期	2010.3期	2011.3期	2012.3期	2013.3期	2014.3期	2015.3期	2016.3期	2017.3期	2018.3期
売上高	15,129	15,338	14,530	17,490	23,201	28,113	32,443	34,261	34,350	36,763	36,114
売上高総利益	6,877	6,763	5,760	5,981	7,202	8,196	9,832	10,856	11,291	10,991	10,431
販管費	4,765	4,965	5,081	5,258	6,165	6,590	6,781	7,758	8,307	8,561	8,740
営業利益①	2,111	1,797	678	722	1,037	1,605	3,051	3,098	2,983	2,429	1,690
経常利益	1,950	1,605	607	621	1,080	1,553	3,006	3,325	2,731	2,337	1,610
親会社株主に帰属する 当期純利益	888	513	337	302	755	807	1,768	2,070	2,153	1,516	1,252
減価償却費(CF)②	2,307	2,487	2,602	2,745	3,088	3,280	3,369	3,649	4,137	4,502	4,662
EBITDA (①+②)	4,419	4,284	3,280	3,468	4,126	4,886	6,421	6,747	7,120	6,932	6,353
	2008.3期	2009.3期	2010.3期	2011.3期	2012.3期	2013.3期	2014.3期	2015.3期	2016.3期	2017.3期	2018.3期
ROE (株主資本利益率)	17.7%	9.5%	6.1%	5.4%	12.7%	12.2%	21.5%	19.8%	18.5%	12.6%	9.8%
売上高純利益率	5.9%	3.3%	2.3%	1.7%	3.3%	2.9%	5.4%	6.0%	6.3%	4.1%	3.5%
総資産回転率	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7	0.8	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7
ROA	8.5%	6.6%	2.4%	2.3%	3.5%	4.7%	8.4%	8.2%	5.8%	4.5%	3.1%

※ROE算出の際の株主資本は期初と期末の平均値を使用しています。



## 14. 貸借対照表の推移

	2008.3期	2009.3期	2010.3期	2011.3期	2012.3期	2013.3期	2014.3期	2015.3期	2016.3期	2017.3期	2018.3期
流動資産	6,793	6,742	6,638	10,396	12,202	13,725	15,892	18,213	19,769	20,557	20,136
固定資産	16,766	18,215	18,644	19,198	20,269	20,262	21,353	25,307	30,321	32,203	32,677
流動負債	9,964	9,245	9,209	10,745	12,351	14,117	15,356	18,070	21,365	20,606	20,991
短期借入金	920	1,700	800	971	417	416	1,200	3,168	4,958	5,163	6,645
固定負債	8,174	10,169	10,394	13,110	13,740	12,760	12,130	13,687	16,628	19,454	18,269
長期借入金	5,348	7,006	8,187	9,862	10,036	9,637	9,376	10,913	13,304	15,403	13,653
純資産	5,421	5,543	5,679	5,738	6,380	7,110	9,758	11,762	12,097	12,699	13,552
総資産	23,559	24,958	25,283	29,594	32,472	33,987	37,245	43,520	50,091	52,760	52,813
	2008.3期	2009.3期	2010.3期	2011.3期	2012.3期	2013.3期	2014.3期	2015.3期	2016.3期	2017.3期	2018.3期
流動比率	68.2%	72.9%	72.1%	96.8%	98.8%	97.2%	103.5%	100.8%	92.5%	99.8%	95.9%
固定比率	314.0%	335.0%	333.7%	339.9%	323.2%	291.7%	224.4%	221.0%	257.7%	261.0%	247.7%
自己資本比率	22.7%	21.8%	22.1%	19.1%	19.3%	20.4%	25.5%	26.3%	23.5%	23.4%	25.0%
D/Eレシオ	246.8%	284.9%	273.0%	306.1%	311.5%	279.0%	196.5%	188.9%	226.4%	237.4%	223.6%



# 15.セグメント別実績 四半期推移 会計期間

(単位：百万円)		2018年3月期				2019年3月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
販売 関連事業	セグメント売上高	3,887	3,631	2,522	2,409	2,877	-	-	-
	内、外部売上	2,804	2,902	2,531	2,428	2,853	-	-	-
	セグメント利益	462	404	247	77	341	-	-	-
	セグメント利益率	11.9%	11.1%	9.8%	3.2%	11.9%	-	-	-
	(対前年増減率)セグメント売上高	+6.4%	△21.3%	△39.7%	△40.4	△26.0	-	-	-
	セグメント利益	+19.6%	△44.5%	△54.3%	△88.9	△26.2	-	-	-
レンタル 関連事業	セグメント売上高	5,230	5,228	5,610	5,312	5,279	-	-	-
	内、外部売上	5,177	5,178	5,581	5,289	5,253	-	-	-
	セグメント利益	188	412	654	451	265	-	-	-
	セグメント利益率	3.6%	7.9%	11.7%	8.5%	5.0%	-	-	-
	(対前年増減率)セグメント売上高	+4.4%	△5.6%	△9.1%	△3.2	+0.9%	-	-	-
	セグメント利益	△50.1%	△39.2%	△20.6%	+16.2%	+41.3%	-	-	-
海外 関連事業	セグメント売上高	1,123	1,388	1,405	1,913	1,991	-	-	-
	内、外部売上	778	1,033	935	1,472	1,599	-	-	-
	セグメント利益	△4	78	5	70	△30	-	-	-
	セグメント利益率	△0.4%	5.6%	0.4%	3.7%	△1.5%	-	-	-
	(対前年増減率)セグメント売上高	+11.6%	+49.2%	+40.9%	+51.5%	77.2%	-	-	-
	セグメント利益	-	-	-	-	-	-	-	-
	売上高合計	10,241	10,248	9,539	9,635	10,148	-	-	-
	内、外部売上	8,761	9,113	9,048	9,190	9,705	-	-	-



## 16.セグメント別実績 四半期推移 累計期間

(単位：百万円)		2018年3月期				2019年3月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
販売 関連事業	セグメント売上高	3,887	7,518	10,040	12,449	2,877	-	-	-
	内、外部売上	2,804	5,707	8,239	10,667	2,853	-	-	-
	セグメント利益	462	867	1,114	1,192	341	-	-	-
	セグメント利益率	11.9%	11.5%	11.1%	9.6%	11.9%	-	-	-
	(対前年増減率)セグメント売上高	+6.4%	△9.0%	△19.3%	△24.5%	△26.0	-	-	-
	セグメント利益	+19.6%	△22.3%	△32.7%	△49.4%	△26.2	-	-	-
レンタル 関連事業	セグメント売上高	5,230	10,458	16,069	21,382	5,279	-	-	-
	内、外部売上	5,177	10,355	15,937	21,226	5,253	-	-	-
	セグメント利益	188	600	1,254	1,705	265	-	-	-
	セグメント利益率	3.6%	5.7%	7.8%	8.0%	5.0%	-	-	-
	(対前年増減率)セグメント売上高	+4.4%	△0.9%	△3.9%	△3.7%	+0.9%	-	-	-
	セグメント利益	△50.1%	△43.1%	△33.2%	△24.8%	+41.3%	-	-	-
海外 関連事業	セグメント売上高	1,123	2,512	3,918	5,832	1,991	-	-	-
	内、外部売上	778	1,812	2,747	4,220	1,599	-	-	-
	セグメント利益	△4	73	78	149	△30	-	-	-
	セグメント利益率	△0.4%	2.9%	2.0%	2.6%	△1.5%	-	-	-
	(対前年増減率)セグメント売上高	+11.6%	+29.7%	+33.5%	+38.9%	77.2%	-	-	-
	セグメント利益	-	-	-	-	-	-	-	-
	売上高合計	10,241	20,489	30,028	39,664	10,148	-	-	-
	内、外部売上	8,761	17,875	26,924	36,114	9,705	-	-	-

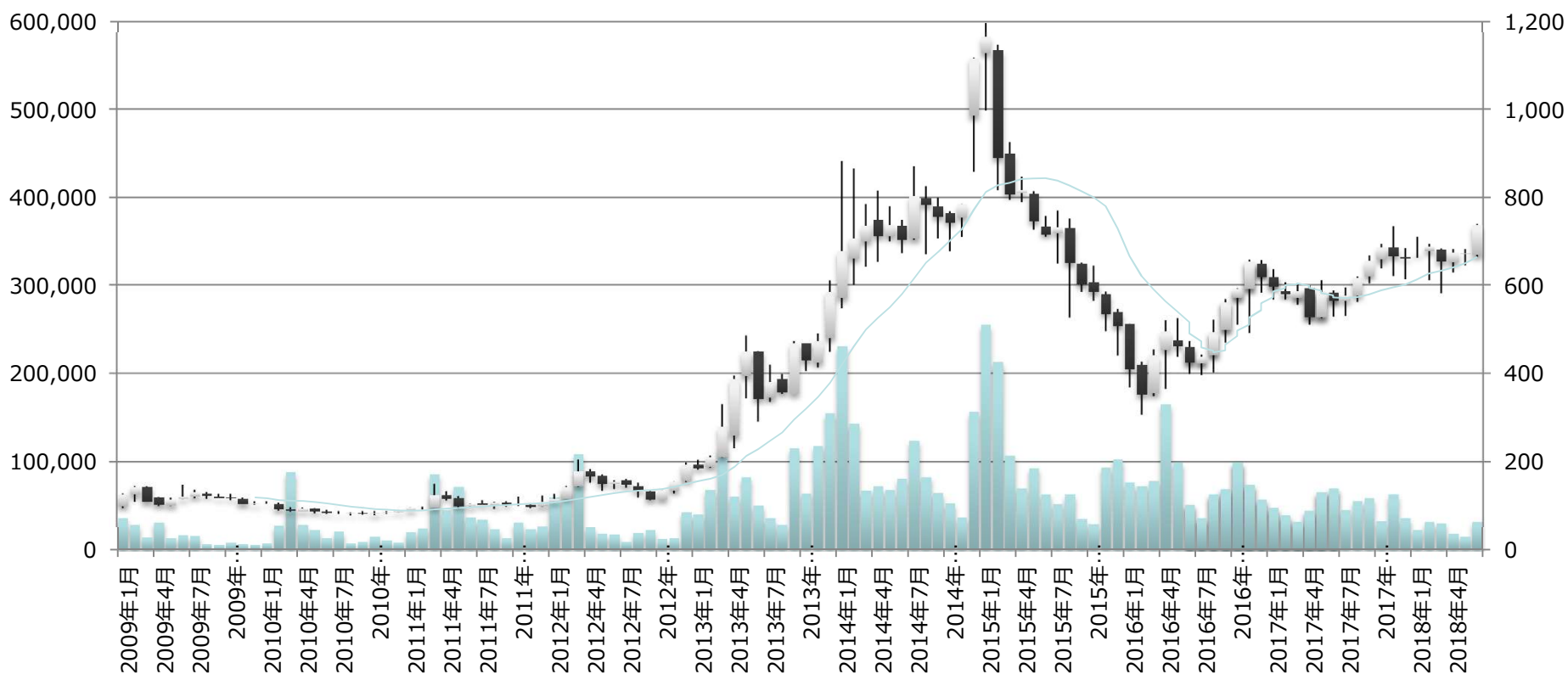




# 17.2445.T SRGタカミヤ 株価推移

一日平均出来高

株価





# 18.IRコンタクト

社名 : エスアールジータカミヤ株式会社  
 住所 : 〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪  
 HP : <https://www.srg.jp/>  
 IRサイト : <https://www.srg.jp/ir/>  
 TEL : 06-6375-3918  
 FAX : 06-6375-8827  
 担当者 : 経営管理本部 広報IR室 川畑、森川

HP



IRサイト



本資料は、2019年3月期第1四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は一部を除き2018年6月30日現在のデータに基づいて作成しております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、安全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更させていただくことがあります。



**SRG Takamiya**  
SUPER RENTAL GROUP